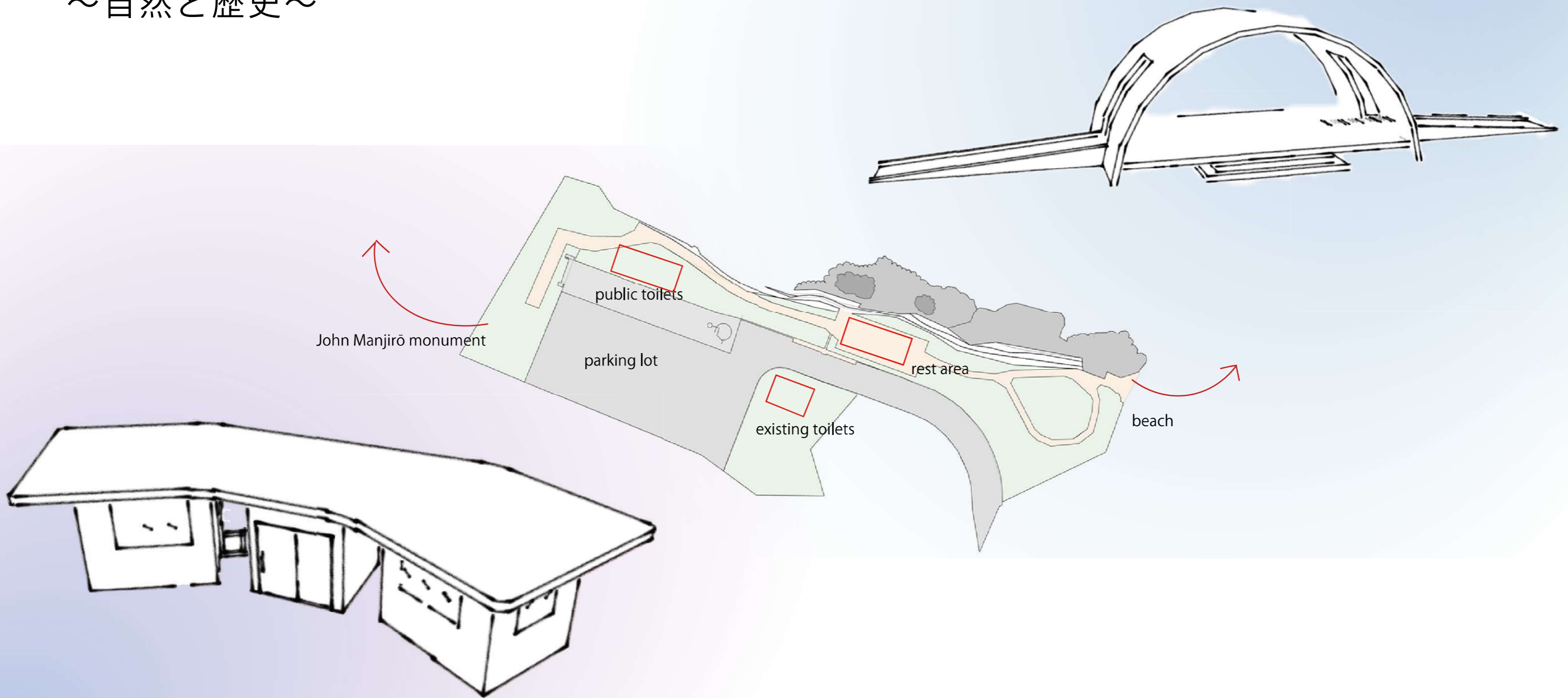


「Connect」

～自然と歴史～



□Concept

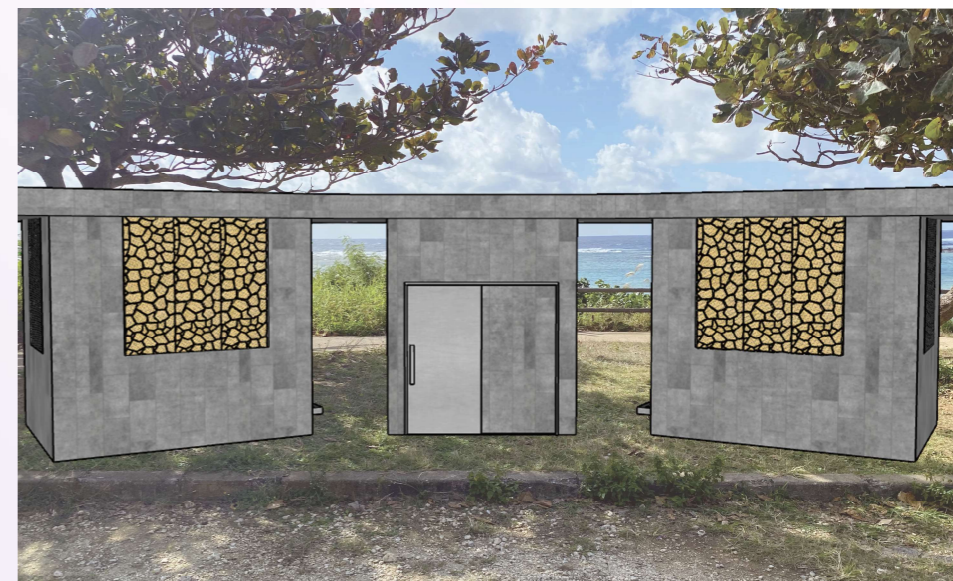
大度海岸は、イノー（礁池）や砂浜、緑地などの自然豊かな環境が取り囲んでおり、数多くの生き物が生息している。また、ジョン万次郎が上陸した地でもあり、自然・歴史・マリンアクティビティを目的とした人々が訪れる。そこで今回提案する施設は、この地の自然と歴史を想い、「自然との繋がり」、「歴史との繋がり」を持たせた施設を提案する。計画施設が建つエリアからは、海を一望でき、大自然のパノラマが広がる。この地の自然が生み出したイノーやバンタから共通する素材として琉球石灰岩を建物の一部に使用することとした。各施設の機能面を確保しつつ、自然的な要素を取り入れ周辺環境との調和が図れる計画としました。

□Plan

現在ある公衆トイレと休憩所は、車道を挟む位置関係にある。新たに計画する施設は、子どもの飛び出し事故防止などの安全面にも配慮しつつ、各エリアからの利便性を考慮した配置とした。公衆トイレは駐車場・ビーチ・記念碑からアクセスしやすい海岸側の駐車場付近とし、休憩所についてはビーチへのアクセスがよい現休憩所と同位置に計画した。既存駐車場は現状維持とし、新たに設ける車椅子利用者駐車スペースは駐車場入り口付近とした。

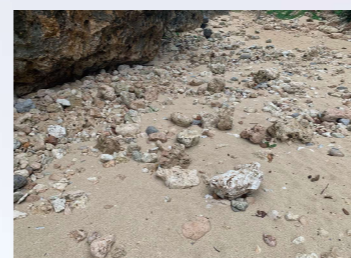
□Public toilets

トイレは、各方面（ビーチ・駐車場・記念碑等）からの利用者が出入りすることを考慮し、通り抜けできる計画とした。壁の一部に琉球石灰岩を使用し、岩のもつ自然そのものの「かたち」を生かすよう石積みとすることでナチュラルな雰囲気を表現。腰壁部分は50mm～100mm程度のものを使用して隙間をつくらないようにし外部から見えないようにする。上部は80～140mm程度のものを使用し岩と岩の間に隙間をつくる。こうしてできた自然的な隙間からは、通風・採光を取り入れることが可能で内部環境を整える。



□Rest area

ジョン万次郎は、当時日本の開国・近代化に大きく貢献した人物であり、アメリカと日本の「架け橋」となった。この地の歴史を未来へ繋げたいという思いから休憩所は「橋」をモチーフにした。休憩所は車道側からの眺望を確保し、ビーチ側とトイレ側には開口を設け、休憩所を通り抜ける（橋を渡る）計画とした。この橋から見渡せる大自然のパノラマは、そこで休む人々に感動と癒しを与える。スラブ周辺やベンチには琉球石灰岩を石積みにして周辺環境との調和を図るだけでなく、岩と岩の間にできる隙間は、大度海岸に生息するオカヤドカリ等の生き物の住処となりえるのではないかと考え、自然環境の保全にも配慮できる。

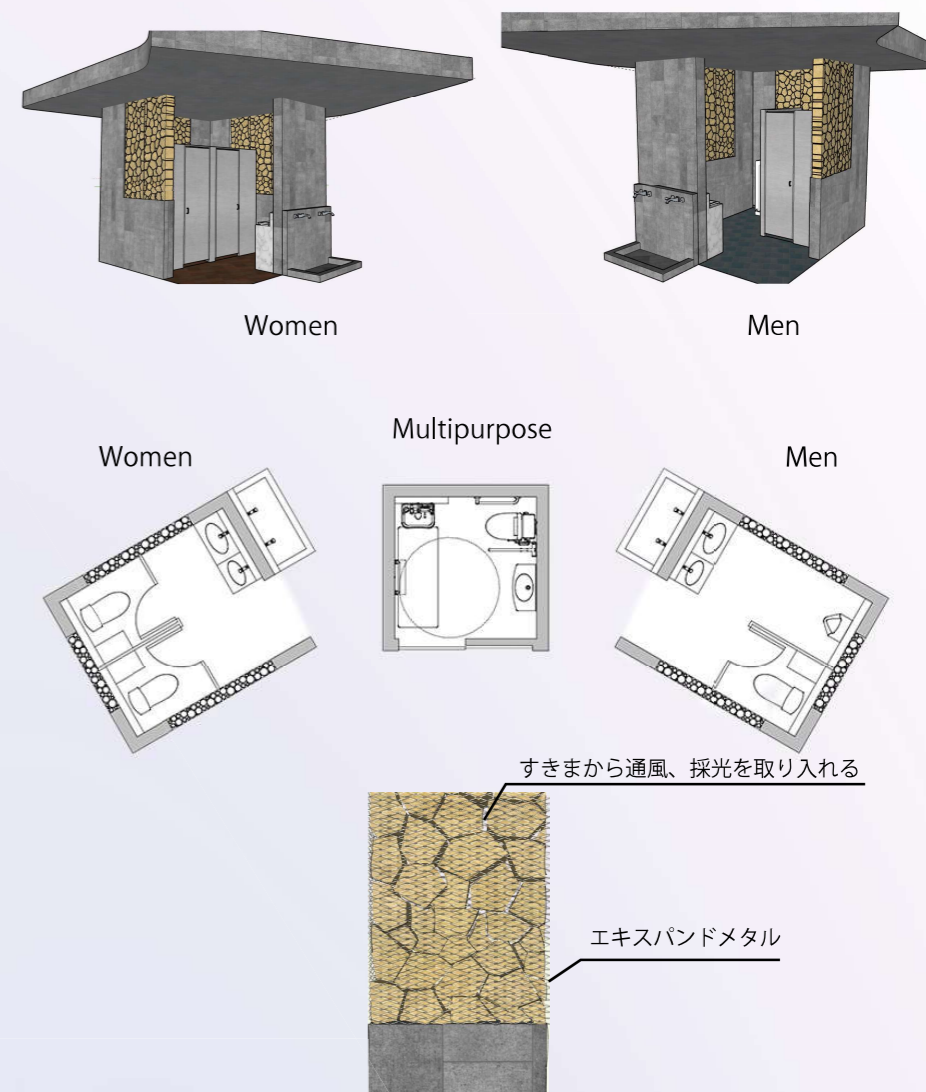


- 使用する琉球石灰岩は可能であれば現地に落ちているものを利用したいと考えています。
- 海に隣接することに配慮し、コンクリートは耐海水性の大きい高炉セメントを使用。

□Data

• Public toilets

延床面積：20 m²
 構造：鉄筋コンクリート造（高炉セメント）
 仕上
 屋根：コンクリート金ゴテ仕上+ウレタン系塗膜防水
 壁：コンクリート打放し+ウレタン系カラークリヤー仕上
 床：コンクリート金ゴテ仕上



• Rest area

延床面積：30 m²
 構造：鉄筋コンクリート造（高炉セメント）
 仕上
 屋根：コンクリート金ゴテ仕上+ウレタン系塗膜防水
 床：コンクリート金ゴテ仕上